



六郷 ろくごう

六郷小学校

H29. 5. 19

No. 6

みんなのがんばりが晴天を引き寄せて

奇跡が起きました。12日（金）の帰りには、完全に外での運動会をあきらめていましたが、土曜の朝の天気予報を見ると、曇りとなっていて驚きました。しかも、昼頃の予報では「午後から晴れる」とのこと。そして運動会当日は、さらに「朝から晴天」という奇跡が起こったのです。これは正に、子ども達のがんばりが引き寄せた晴天であると感じています。

6年生が一番がんばってくれました。運動会の準備や練習はもちろん、常に先頭になって全校を引っ張ってくれました。そして、何と言っても「応援練習」はすばらしいものがありました。6年生がいろいろ企画して、各色のやる気を引き出しました。以前もお伝えしたように、やらされる練習から自分たちで主体的に行う練習に次第に変わり、そこから応援そのものも大きく変化しました。さらには、その思いが下級生にまで広がり、予行の際は各色の応援席に6年生がいなくなっても、すぐに5年生が先頭になって応援を始める姿が見られました。そして、当日は、上の学年が応援席に不在でも、必ずどこかの学年が前に立って応援していました。特に、2年生が横に並んで一生懸命応援する姿には感動すら覚えました。



5年生が受け継いで



1年生も一生懸命に



真剣な応援



マイクパフォーマンス

仲間を受け入れ、共に喜べる子ども達

運動会当日、各色の応援席前でカメラを構えていました。そこで私は、たくさんのすばらしい場面を見ることができました。それが下の写真です。



写真を見ていただければわかるとおり、子ども達はそれぞれの種目でがんばってきた仲間を、「がんばったね」という言葉で迎え、ハイタッチしたり抱き合ったりしているのです。そして、種目ごとの結果を心から喜んで、数人で輪になってジャンプしながら嬉しさを表現していました。

六郷小学校の子ども達の良さが、凝縮して表現された感動的なひとときでした。六郷小学校の子ども達は、お互いの存在を認めてくれています。人と違うことを「責める」のではなく、「その子の個性」として受け止めてくれています。ですから、写真のように同じ色の仲間を分け隔てなく、本当の仲間として認め、心から共に喜びを表現することができるのです。

こういった姿は、日常の生活でもたくさん目にします。登校中に他の場所が気になって、列から外れる1年生に「だめだよ。ちゃんと並ぶんだよ。」とやさしく何度も教えてくれていた4年生。不安感が強い1年生の女の子の手を、毎日つないで来てくれる班長の女の子。けがをした下級生を保健室に連れてきてくれた6年生など、校内を回るたびにこういった光景を目にします。現代の殺伐とした状況の中で、自分と違った子を否定する風潮があります。そんな世の中であって、六郷小学校の子ども達の「やさしさ」「寛容さ」には、本当に驚きさえ感じます。この良さが本物であることを、私は確信しました。運動会、本当にすばしかったです。

運動会のいろいろな光景を楽しんでください。

① 徒競走への意気込み



② 親子でのふれあい



③ いろいろな場面から



(1年生の保護者の方の感想から)

- 運動会は、みんなの願いが叶って奇跡的な晴天。グラウンドで行う運動会は、やっぱりいいものだと実感しました。80M走では5位。親子走でがんばろうと励ましても「頑張らない」とかなり戦意喪失していましたが、80M走の結果よりも、すべての種目に緑組の一員として参加している姿が、何よりも輝かしく映りました。(後略)
- 運動会はとても楽しく、また応援合戦でも、6つの学年が一つになっている集団の中に加えていただいている様子が、とてもありがたく、学校生活に慣れてきていることを感じ留ることができた良い一日でした。

とかく学校行事は無事終わることが目的になってしまっていて、肝心の子ども達の成長が実感できないことがあります。しかしながら、今回の六郷小学校の運動会は、正に「子ども達一人ひとりが、大きく成長した行事」であったと思います。今後の行事も、子ども達を主体にした、一人ひとりが意欲的に取り組む行事にしていきたいと考えています。保護者の皆様のご協力もよろしくお願いいたします。